

キャリア形成に及ぼす保育実習体験と就職支援の課題

The influence of the childcare training experience to the carrier formation and problems of the finding employment support

坪井 敏 純
Toshisumi Tsuboi

鹿児島女子短期大学

保育実習を経験し、実際に就職先に保育所を選んだ学生のうち20%が保育に関してやりがいや生きがいを感じていない。そして40%近くが保育所への就職をやめたり、迷っている。さらに就職先の希望を保育所としている学生の7.6%が、希望しない職種であると答えている。これは幼稚園を選択した学生でも11.1%が希望しない職種であると答えている。保育士養成校として、このようなミスマッチがなぜ起こるのか、そしてその学生に対するキャリア教育をどのようにするのかという課題に取り組みなければならない。

キーワード：キャリア教育、保育所実習、やりがい、就職支援

幼稚園教諭や保育士養成校では、もともと保育者¹として就職を希望しない学生も少数ではあるが入学しており、さらに養成校の学びにより保育士から進路を変更する学生もかなりの割合で存在する。また保育者養成の学科や専攻を選んだ理由は大学・短大では異なっており、短大では「子どもが好きだ」という理由を、四大生では「子どもにかかわる仕事がしたい」という理由が一番多い(加藤, 2009)という結果も報告されている。このような入学時点での意識の違いが、養成校の学習に影響を与えていることは、十分考えられる。

実習により保育者としての成長は多くの研究で明らかにされているが(奥・岡崎・笹川, 2009)、実習を通して育つ保育者としての資質の研究(富岡, 2006)や、実習を通しての保育者としての効力感がどう育つのかといった、実習の体験によって育つ効力感などの研究は多い(森野・飯牟礼・浜崎・岡本・吉田, 2011)。実習によって保育者としての育ちという側面での研究は多いが、それが職業選択(保育士や幼稚園教諭)にどう結びつくのかという研究は見当たらない。

坪井(2015)は、2年生で行う幼稚園教育実習が終わった学生を対象に行った調査によれば、「保育者としての就職希望者は入学時から10%程度減少しており、15%以上の学生が保育者としての自信を無くしたり、適性に疑問を持っており、保育者としての適性がないと感じている学生でも、13%が保育者として仕事をしたいと望んでいる。さらに保

育職につきたくないという理由を探してみると、必ずしも実習によって自信を失ったり、不適切な指導や、子どもが嫌いになったといったことが原因ではないことが示唆された。キャリア教育を進めるうえで職業選択の混乱が見られることから、学生指導の在り方を見直す必要がある」といった指摘を行っている。

では、実際の職業選択の過程における実習の及ぼす影響や、職業選択とその職業に対する意識、例えば適性ややりがいとの関係はどのようなものなのであろうか。この研究の目的は、実習の先にある、職業選択との関係やそのプロセスを探ることである。

1. 目的

この研究は本学児童教育学科の幼保コースの2年生を対象として、就職がほぼ決まった時期に、保育所実習の体験が職業選択に及ぼす影響と、職業選択に至る経緯を探り、就職支援の課題を明らかにすることが目的である。

2. 方法

本学の児童教育学科幼保コースの2年生215名に対して、2014年1月に保育所実習の経験に関する事項と就職決定の過程について、アンケート調査を行った。回収率は85.6%(184/215)であった。なお、実習の時期は表1に示した。また、結果は本研究の目的に添った事項だけを報告する。

¹ 幼稚園教諭と保育士を合わせて、以後は保育者と呼ぶ

表1 実習の時期

幼稚園教育実習	1年後期 (11月~12月)
保育所実習 ; 必修	1年後期 (2月)
幼稚園教育実習	2年前期 (6月)
保育所実習 ; 選択 施設実習C ; 選択	2年前期 (8月) 2年前期 (8月)
施設実習 ; 必修 施設実習A・B ; 選択	2年前期 (9月) 2年前期 (9月)

3. 結果と考察

(1) 実習中に悩んだこと

保育所実習中に、悩んだり、困ったことについて、以下の項目について回答を求めた。表2がその結果である。高い割合を示したのは、「実習園の保育士の保育に疑問を持つことがよくあった」は「そう思う、ややそう思う」を合わせて25.6%と、1/4の学生が回答している。これは坪井(2014)の幼稚園教育実習でも26.9%が園の保育方針が自分と合わないと答えている。

「突然、担当保育(部分保育など)を任されることが何度かあった」は「そう思う、ややそう思う」を合わせて34.8%で、1/3が経験しており、実習の計画性にやや疑問が残る。これは幼稚園教育実習の調査でも24.7%と少なく

ない(坪井, 2014)。また「職員との人間関係が難しかった」は「そう思う、ややそう思う」を合わせて15.8%であった。これは幼稚園教育実習でもほぼ同じ割合である(15.1%; 坪井, 2014) 協働性が求められる現場であり、学生の戸惑いは大きいかもしれない。「自分の保育を否定されるような発言が繰り返された」は6.5%(約15人)と少ないが、決して無視できる数ではない。ただこれが直ちに職業選択に悪影響を及ぼすわけではない(坪井, 2014)。

(2) 「職業選択」

「保育士は職業として、希望(選択肢)の一つでしたか」という問いについて、保育士になりたい気持ちの変化を保育所実習の経験の有無によって調査した結果が表3である。まず、入学直後は70%近くの学生が保育士は希望職種の一つとして挙げている。実習直前でもその割合はほとんど変わらない(この3か月前に幼稚園教育実習Iを経験しているが、保育士を希望していた学生が幼稚園教諭も選択肢の一つとして考えるようになっていくが、保育士を選択肢から外すことはない)

しかし実習の後になると、否定的割合が増えていく。不明が17.9%もあるので明確な結論は出しにくい、「そうおもう」が39.7%と激減し、「どちらともいえない、ややそう思わない、そう思わない」を加えると、入学直後18.0

表2 実習中に悩んだり、苦労したこと

	そうは思わない	ややそう思わない	どちらともいえない	どちらかといえば、そう思う	そう思う	不明
実習園の保育士の保育に疑問を持つことがよくあった	34.8%	20.7%	17.9%	19.6%	6.0%	0.5%
指導案が園独自のもので、作成に苦労した	62.5%	6.0%	7.6%	3.3%	2.2%	17.9%
研究保育以外に、担当保育が多すぎて、対応するのが難しかった	58.2%	16.8%	8.7%	2.7%	0.5%	12.5%
突然、担当保育(部分保育など)を任されることが何度かあった	40.8%	14.7%	9.2%	26.1%	8.7%	0.0%
職員との人間関係が難しかった	47.3%	17.9%	15.8%	8.7%	7.1%	2.2%
わからないことが、質問しにくい雰囲気であった	44.6%	17.4%	9.8%	8.7%	3.3%	15.8%
自分の保育を否定されるような発言が繰り返された	70.1%	13.6%	9.2%	5.4%	1.1%	0.0%

表3 実習前後の「保育士」を職業として選択する割合

	そうは思わない	ややそう思わない	どちらともいえない	どちらかといえば、そう思う	そう思う	不明
入学時は保育所の「保育士」は職業として、希望(選択肢)の一つでしたか	7.1%	6.0%	4.9%	13.0%	69.0%	0.0%
保育所実習前では、保育所の「保育士」は希望職種の一つとして考えていましたか	7.6%	6.5%	6.5%	17.4%	61.4%	0.5%
保育所実習後では、保育所の「保育士」は希望職種の一つとして考えていましたか	10.9%	6.0%	10.3%	14.1%	39.7%	19.0%

%, 実習前20.6%, 実習後27.2%と職業選択の選択肢から外れていく割合が高くなっていく。しかし同じ保育士でも、施設保育士の割合が増えていくことから保育所保育士の選択割合が減少することも一因であろう。

(3) 保育士という職業のとらえ方

表4は保育所実習において、実習で「保育士という職業」について感じたことや、自分との関わりについて尋ねている。

自分が保育士に向いているかどうか分からないという不安が、かなり高い(どちらともいえないが42.9%)。それは「保育士になる自信が生まれた」が、「そうは思わない」「ややそうは思わない」「どちらともいえない」を合わせて64.7%に上ることと関連している。

これは実習によって現実の保育を体験し、「無邪気な」有能感あるいは効力感が減少するという結果であり、そこから職業としての保育士と自分の適性やなりたいという気持ちをもう一度考えるきっかけとなる(岩崎桂子, 2010; 三木知子・桜井茂男, 1998)。また保育士としての資質に

効力感に加えてレジリエンスの必要性を上げる研究もある(川村高弘・庄司圭子・三木さち子2015)。また上長(2012)は共感性の高さが志望動機の変容に影響すると主張し、実習中の失敗体験をプラスに解釈することで乗り越えられるという。しかし、効力感が実際の職業選択にどう影響するかという点については、明らかにはなっていない。

「保育所保育士にやりがいや生きがいを感じることができた」という問いに対して、選択した職業ごとに見たものが表5である。

選択した職業が保育所保育士の場合、80.6%のやりがい等を感じているが、施設保育士は66.7%、幼稚園教諭は73.3%であった。保育所保育士を選択した学生の中にも、「どちらともいえない」を入れると、「やりがいや生きがいを感じない」と答えた学生が20%近くいる。このような職業選択がなぜ起こるのかいくつかの可能性については、「5」で改めて検討するが、離職の高さの原因にもなっているのではないと思われる。また、同じ保育士でも施設保育士の就職先は養護施設が多いことから、「養護」に関心を持っていることが原因であろう。

表4 実習経験と保育士という職業に対するとらえ方

	そうは思わない	ややそう思わない	どちらともいえない	どちらかといえば、そう思う	そう思う	不明
自分には保育所の保育士に向いていると思った	14.7%	12.0%	42.9%	22.8%	6.5%	1.1%
保育所の保育士という仕事の重要性や素晴らしさを感じた	2.2%	3.3%	12.0%	27.7%	53.8%	1.0%
手本となる保育士との出会いがあった	4.3%	6.0%	9.2%	22.3%	34.2%	23.9%
保育所の保育士のやりがいや生きがいを感じることができた	3.8%	4.9%	16.8%	34.2%	38.6%	1.1%
保育士になる自信が生まれた	12.0%	15.2%	37.5%	23.9%	10.3%	1.1%
保育所の保育士になりたいと思った	13.0%	10.9%	15.2%	28.3%	31.5%	1.1%

表5 選択した職業ごとの実習中に感じた保育士としてのやりがい

	そうは思わない	ややそう思わない	どちらともいえない	どちらかといえば、そう思う	そう思う
保育所保育士	1.9%	3.9%	13.6%	35.0%	45.6%
施設保育士	5.6%	11.1%	16.7%	27.8%	38.9%
幼稚園教諭	6.7%	0.0%	20.0%	40.0%	33.3%
幼児関連	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%
その他	0.0%	10.0%	50.0%	30.0%	10.0%
総計	3.4%	4.5%	17.4%	35.4%	39.3%

(4) 就職先あるいは第一希望の就職先

すでに就職が決まった学生や、就活中の学生も含めて、実際に就職したところ（あるいは現在就職したいと思っているところ）を表したのが表6である。認定こども園の幼稚園型と幼保連携型は幼稚園教諭と合算して示した。まだ、はっきりと決めていない学生がいるため、調査人数とは異なるが、この割合はほぼ例年と同様である。

表6 あなたは現在、以下のいずれの職業を選択していますか

保育所保育士	施設保育士	幼稚園教諭 保育教諭	幼児関連	その他
56.5%	9.8%	24.5%	1.6%	5.4%
104人	18人	45人	3人	10人

(5) 職業選択と自分の希望

表7は選択した職業と自分が望んでいた職業が一致しているかどうか尋ねた結果を示している。就活中の場合は選択しようとしている職業が、第一希望かどうかで答えている。

大きな問題は、「どちらともいえない」「どちらかといえば望んでいない」「望んでいない」を合わせると11.4%の学生が望まない就職をしていることになる。

学生の職業選択が自分の意志とは違う何かの要因によって、その職業を選択せざるを得ないことが起きていると推測される。例えば、おそらく一番多いのが親の希望であろう。「せっかく、免許資格を取ったのだからその職業に就

いてほしい」と望んでいるが、学生にとっては、「親の期待もあって入学したが、自分には向いていない、しかし免許資格だけは親の希望通り頑張ってみよう」と、とりあえず2年間は過ごす、最後の職業決定で親に押し切られて、望んでいない職業に就くことになる。あるいは1年だけという約束で職に就く、または入学した時点で、他の職業も考えており、とりあえずしばらくは働いてみるといった、なりたくはないが続けるつもりはないなどの理由があげられる。

もう一つは、自分がどうしたいかわからないというケースである。保育士や幼稚園教諭という職業は自分には向いていないと思うが、他の選択肢が見つからない、あるいは本人も「せっかくとった免許資格」なのだからという理由で、就いてしまう。

表8は、選択した職業との、自分が望んでいた職業の関連を見たものである。

希望していた職業かどうかを尋ねたところ、「望んでいた、やや望んでいた」を合わせて、保育所保育士を望んでいて保育所保育士になる91.4%、施設保育士は88.9%、幼稚園教諭・こども園は88.8%と希望の就職先にほとんどが就職している。

しかし希望していない就職先に決まった学生は、幼稚園の4.4%、施設保育士が5.6%、保育所保育士が6.7%である。保育所の場合、幼稚園・認定こども園の求人から比べると、求人件数は極めて多く、幼稚園や認定こども園を希望してもなかなか決まらない場合に、保育所を選ぶケースも少な

表7 最終的に決定した職業は、あなたが一番望んでいた職業ですか

	望んでいた	どちらかといえば 望んでいた	どちらとも いえない	どちらかといえば 望んでいない	望んでいない	不明
最終的に決定した職業は、あなたが一番望んでいた職業ですか	59.2%	28.8%	4.9%	3.8%	2.7%	0.5%
人数	107	51	9	7	5	1

表8 選択した職業に対して、望んでいた程度

選択した職業	望んでいた	やや望んでいた	どちらともいえない	やや望んでない	望んでいない	(人数)
保育所保育士	60.6%	30.8%	1.9%	3.8%	2.9%	104
施設保育士	55.6%	33.3%	5.6%	5.6%	0.0%	18
幼稚園教諭	64.4%	24.4%	6.7%	4.4%	0.0%	45
幼児関連施設	100%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2
その他	30.0%	20.0%	30.0%	0.0%	20.0%	10
総計	59.8%	28.5%	5.0%	3.9%	2.8%	179

くない。

金・林・緒方(2008)は、入学生全員に適性検査(SAI)を行い、自己分析をさせている。女子学生では保育者としての適性があると判断された学生は55%で、無いと判定された学生は45%であった。さらに適性ありと、なしの学生の進路についての相関は認められないが、保育関係の仕事だけを抽出してみると適性なしの学生の就職先は、幼稚園・施設に偏っているという。さらには適性ありと判定された学生ではあるが、就職の意志がない、あるいは意志はあるが仕事についていないというケースがみられたという。

ただ、問題はこの著者の短期大学特有の問題なのか、それとも共通の問題なのか判断し兼ねる点である。また適性検査の判定が職業選択を予測するという妥当性も疑がわしい。特に適性検査の検査項目を抽出する際のサンプリングに偏りがなければならぬ。

(6) 現在選択した職業の決定時期

職業を決定した時期を尋ねた回答結果が表9である。無回答が28.3%もいるため、はっきりとは言えないが2年前期までと2年後期がおおよそ同じ割合になっている。

表9 職業選択の時期

	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	はっきりしない	無回答
最終的に職業を決めたのはいつ頃ですか	3.3%	7.1%	22.3%	33.7%	5.4%	28.3%

これを職業別に分けてみたのが表10である。2年前期までに、保育所保育士は41.1%、施設保育士は50%、幼稚園教諭は61.2%で、幼稚園教諭が一番早い時期に意志決定しているということになる。これが2年後期に入ると、保育士は51.3%、施設保育士は50%、幼稚園教諭は33.3%になっている。

結局、保育所保育士は2年後期まで決定が遅れられ、施設保育士は2年前期で急激に決定率が上がり、幼稚園教諭は2年前期までに2/3は決定している、という傾向がある。本学の場合は施設実習が最後の実習となっており、2年前期の9月に行われる。そのため実習時期がかなり影響している可能性がある。

(7) 学生の職業決定と親の態度

学生の職業決定に際して、親がどのような態度(賛成あるいは反対)であったかを尋ねた結果を表11に示した。保護者の91.8%は(賛成、やや賛成を合わせた割合は)、学生の職業選択について賛成をしているが、6.5%が賛成の意思を示していない。つまりおよそ12名の学生が親の希望とは異なる職種に就職している可能性がある。

これを職業別に、保護者の反応を調べたものが表12である。幼稚園教諭に対する反対は全く見られない。保育所保育士の場合は、親の反対は、幼稚園教諭の方が社会的価値が高いといった親の考え方によるものが多いように感じる。

表10 選択した職業とそれを選ぶ意志を決定した時期

決定時期	選択した職業					総計
	保育士	施設保育士	幼稚園教諭	幼児関連	その他	
1年前期	5.3%	0.0%	5.6%	0.0%	0.0%	4.6%
1年後期	9.2%	8.3%	13.9%	0.0%	0.0%	10.0%
2年前期	26.3%	41.7%	41.7%	0.0%	0.0%	30.8%
2年後期	51.3%	50.0%	33.3%	100%	50.0%	46.9%
特定できない	7.9%	0.0%	5.6%	0.0%	50.0%	7.7%
総計	100%	100%	100%	100%	100%	100%

表11 保護者の反応

	賛成	やや賛成	どちらともいえない	やや反対	反対	不明
保護者の方(あるいは家族やそれに代わる人)は、あなたの決めた職業について相談、あるいは伝えた時、どのような態度でしたか	77.7%	14.1%	4.9%	1.6%	0.0%	1.7%

表12 職業別の保護者の反応

	賛成	やや賛成	どちらともいえない	やや反対	反対
保育所保育士	80.6%	12.6%	5.8%	1.0%	0.0%
施設保育士	55.6%	33.3%	5.6%	5.6%	0.0%
幼稚園教諭	93.3%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%
幼児関連	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%
その他	20.0%	40.0%	20.0%	20.0%	0.0%
総計	77.7%	14.5%	5.0%	2.2%	0.6%

4. 結論とまとめ

全ての実習が終わった学生なので、保育所実習だけが職業選択に影響しているわけではない。また実習した保育園に対するマイナスのイメージがあったとしても、それは一保育所やその園の保育士の問題であって、それが保育所保育士を職業として選択しないことに直結するわけではない。その点を留意しておきたい。

さて就職との関係から、実習体験を分析して見ると、保育所実習後に保育所を選ばない学生が増加するが、実際の保育を経験して保育所保育士の仕事についての理解が深まった結果でもあるし、施設保育士に希望が移ったり、保育への疑問から保育所に対する期待が外れたといったことも考えられる。

さらに自分は保育士に向いていないと回答した学生が26.7%もあり、「保育所保育士としてやりがいや生きがいを感じない」は「どちらともいえない」を入れると25.5%と1/4を超える。幼稚園教育実習を終えた学生でも15.4%は生きがいややりがいを感じていない(坪井, 2014)。実習園に問題があるケースもないとは言えないが、もともと保育所保育士を目指していない学生にとっては、そこにやりがいを感じる割合は少ないかもしれない。保育を学んでいる学生は、幼児期の重要性は実習で感じているが、保育所保育士としての職業には結びつかないということであろう。例年、保育所に就職する学生が6割から7割という実態は、この結果を反映しているように思える。

しかし、問題は実際の職業選択で保育所保育士を選んだ学生の20%がやりがいや生きがいを感じておらず、さらに保育所保育士という職業も、望んだものではない学生が、「どちらともいえない」を含めると8.6%(約9人)もいる点に注目しなければならない。全体としても自分の選んだ職業が望んだものでない、という回答が「どちらともいえない」を含めると11.4%と一割を超える。

つまり、保育職という専門性の高い職業であるにも関わらず、生きがいややりがいを感じず、必ずしも自分の望まない職業選択をしている学生が少数とはいえ存在する。誤った進路を選んでしまったのか、選ばざるを得なかったのか、

入学後に保育職になる意欲が低下したのか、理由は異なっても、キャリア教育を保育職へ誘導するような内容では、これらの学生を追い詰めることになり、疎外感を高める結果となる。実際、周囲の学生と話題が合わず、孤立していくケースもある。とはいえ、80%を超える学生が専門職に就く以上、その職業に対するキャリア教育は必要である。

その職業に何らかの理由で意思に反して就かざるを得ない学生にとって、職業教育や就職支援はその守備範囲を超えるものであり、むしろ個別の学生相談によって対応してくしかない。そのためにも2年生後期の職業選択の時期に、個別面談などに十分な時間を取る必要があるであろう。

引用文献

- 加藤麻理恵 保育者養成大学在学性における進学動機、就職希望及び保育者効力感 保育士養成研究, 27,29-36, 2009
- 奥明子・岡崎比佐子・笹川康子 保育者を志す学生の保育所実習前後の意識の変化 保育士養成研究27,45-54
- 富岡麻由子 保育士・幼稚園教諭養成校の学生の持つ保育者に求められる資質の認識 -実習の経験による比較- 保育士養成研究, 1-10, 2009
- 森野未由・飯牟礼悦子・浜崎隆司・岡本かおり・吉田美奈 保育者効力感の変化に関する影響要因の縦断的検討 保育学研究49, 2, 96-107, 2011
- 坪井敏純 幼稚園教育実習の実態とキャリア教育の検討 鹿児島女子短期大学紀要50, 67-76, 2014
- 金俊華・林幸治・緒方章嗣 保育士養成校におけるキャリア教育-適性検査と就職動向との関連について- 近畿大学九州短期大学研究紀要38, 39-47, 2008
- 岩崎桂子 保育者効力感研究の現状と課題 小池学園研究紀要 第4号, 77-85, 2010
- 三木知子・桜井茂男 保育専攻短大生の保育者効力感に及ぼす教育実習の影響, 教育心理学研究第46巻第2号, 203-211, 1998
- 上長然 保育者養成課程における保育者志望動機の変容 近畿大学豊岡短期大学論集9, 23-32, 2012
- 川村高弘・庄司圭子・三木さち子 保育者のレジリエンスと保育者効力感の関連 神戸女子短期大学論60巻, 9-16, 2015

(2016年12月2日 受理)